

4. 再びパリへチャンス到来 英文レターと審査員特別賞受賞

司会：

もうまたまたびっくりしてしまっただけですが、パリに行かれたのは一度じゃないんですね。

大石：

作品だけになるんですけど、2回目はですね。あの美術展覧会の方にちょっと出品させてもらいました。

宮本：

軽くおっしゃいますが、このフランスの美術展もお声掛けからですね。

大石：

はい、Instagram見ましたということで、またお声掛けがあって、美術展に。

宮本：

フランスで開催された国際美術展ですね。

大石：

はい。美と平和の祭典っていうタイトルで、日本の会社が企画した展示会なんです。

司会：

そのときにはセンター長と一緒にだったんですね。

宮本：

そうですね。ご一緒に商標権もちょうど出し終わった頃かな、出してる最中かな。

大石：

はい、はい、出してるときでした。

宮本：

次はその話もまいりまして、一緒にきたっ！て感じですね。

これは、また心してこのチャンスをつかめつかまねばというところで、準備をしましょうとなりました。

宮本：

始めは商品のみ送ることになっていましたが、商品に込めた大石さんの思いをぜひ紹介文として付けたほうが良いですと提案させていただきました。出品されるのが海外だから、商品の紹介を日本語で書いて出すわけいけないんですね。

大石：

そうなんですよ。

宮本：

それでフランスだけど、国際的なその美術展で現地の方も英語とかもお話になられるので、英語で商品紹介を書きましょうという話になりました。

大石：

手伝ってもらいました、すごく。

宮本：

センターで2人して、すごい頑張って作りましたよね！

大石：

私もパソコンとかがかなり苦手なので、どうしたらいいのかがからがまるので、本当お世話になったんです。

司会：

どんな紹介文になったんですか。

宮本：

まずは大石さんの思いの丈を日本語でかいていただきました。何か大きなイメージを持たれているような文章を書いていただきましたので、少しわかりやすい形に落とし込み、そこから英文に直しました。今ちょっと手元に文章がないんですが。

大石：

なんか私の鶴に込めた思いだったり、あと、小さな 2.5 センチで作っている鶴なんですよっていうところから、平和と花みたいな、人生に花をみたいなのところも含めて何かとまとめました。

宮本：

とにかく思いを書いてきてくださいというところから、その大きな思いを一旦受けとめて。

大石：

ありがとうございます。私がまとめきれないタイプでもあるし、言葉が出てこないのと、書き出したら止まらないタイプで。

宮本：

それを何とか A41 枚ぐらいに収めて、最後大石さんの直筆のサインを入れて仕上げました。なんとかそうやって努力して出した甲斐がございまして。

大石：

ありがたいことに、特別賞をいただきました。

宮本：

そう、賞までいただいちゃいました。

大石：

本当、そんなのも想定してなかったんです。私胸いっぱいだったんです。

司会：

もらわれていかがでしたか。

大石：

いやいやもう本当衝撃ですね。衝撃のときって真顔になるんですね。エッ〜、みたいな。やったとかじゃないんですよ。何ですかみたいな。ついつい言っちゃいました。

宮本：

いやあもう、スケールがすごすぎて、グローバルで。一步を踏み出すことが、どれだけ大切かということを実際に教えていただきました。

大石：

踏み出してみないとわからないから始まるタイプなので、想定外なんですよ。起こることが。

宮本：

そうなんです。そして今センターに作品とそのときの賞を壁に貼らせていただいています。鶴のピアスも入れて、これなんですよみたいな感じで。

大石：

ありがとうございます。知らなかったです。今初めて聞きました。

司会：

センターで実物が見れるんですね。

宮本：

そうなんです。産業支援センターで可愛い可愛い折り鶴が待ってます。

司会：

素敵ですね。

宮本：

本当にもう想定外どころではない、一緒にすごい喜びを味わわせていただいています。

大石：

本当ありがとうございます。一緒に感激感動していただいて。

司会：

改めて産業支援センター宮本様に相談されてみていかがでしたか。

大石：
そうですね、いやもう本当に、もうありがとうございますですよ。

宮本：
ありがとうございます。こちらこそ。

大石：
相談してよかったですし、それこそ自分の性格だけでは、やっぱりこういうお話いただいても先に進めなかったかもしれないんですよね。それを先に進むためにはっていうところも、すごく教えていただいたのが本当にありがたかったですね。

宮本：
こちらこそ、貴重な体験をご一緒させていただけました。
そこからブランディングもでき、準備も整い、大村市のふるさと納税にアップとなりました。

大石：
ありがとうございます。

宮本：
嬉しいですね。また多くの方に手に取っていただきたいですね。

大石：
小さいので写真よりも多分現物はこんな小さいのって、みんなに言われるんですけど、可愛いんですよ。付けてみると、こんな感じなんだっていう、ちょっと2度の感動ってあるんですよね。

宮本：
とっておきのときに付けていくんですけれども、必ず可愛いと言われます。

司会：
やっぱりですか。

宮本：
はい。

大石：
なんか嬉しいですね。

宮本：
大村市役所に行ったりとかするとき、これですねって言われるので、これです！って言っていますね。(笑)

大石：
少しずつですね、広がってってくれるから、そういう話になってくれるのがまた嬉しいですね。

宮本：
確かに、また先に進めましょう。

大石：
はい、嬉しい。本当に。

司会：
いやまだまだお話していきたいところなんですけど、お別れの時間も近づいてまいりました。最後に、大石華代様のこれからの取り組みや夢についてもお聞きしてもよろしいですか。

大石：
そうですね。小さく折っている鶴なんですけど、夢は大きいといいますが、日本中とか世界中でイベントもあるし、そういうところでイベントやりたいなっていうのが本当の気持ちなんです。
まだまだ子育て中のママなので、そっちの方にもちゃんと心に余裕を持ってないと家で安定した家庭ができないので、できる範囲でイベントを自分からでもしていきたいとか、インスタグラムからオーダーを受け付けながら、今以上に技術を磨いて、極めていきたいとおもっています。私の作品手に取ったときに、うわーっていうその感動とか感激とかいうのを見るのが私の喜びなんで、お互い様でそれがどんどん広がればなって本当に思っております。

司会：

未来が見えてきますね。

宮本：

そうですね。世界中とお話ありましたが、もうそこ進まれていますからね。

司会：

そうです。どんどん広がっていきますね。

大石：

ありがとうございます。

司会：

本日のお客様 Wakka 大石華代様にお越しいただきました。ありがとうございました。

では大村市産業支援センターセンター長宮本美砂様とお送りしました、集まれファーストペンギンニュービジネスザネクストステップ。この番組は、大村市産業支援センターの提供でお送りいたしました。